

# 10 村上市文化財保存活用地域計画【新潟県】

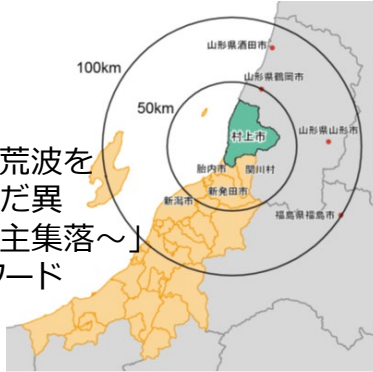
【計画期間】 令和8～17年度（10年間）

【面積】 1,174.17km<sup>2</sup>

【人口】 約5.3万人

【関連制度】

歴史的風致維持向上計画  
(H28年度)、日本遺産「荒波を  
越えた男たちの夢が紡いだ異  
空間～北前船寄港地・船主集落～」  
(R6年度助成認定)、100年フード  
「村上の鮭の食文化(R3年度)」



## 指定等文化財件数一覧

	類型	国指定・選定	国選択	県指定	市指定	国登録	合計
有形文化財	建造物	2	—	1	16	26	45
	美術						
	絵画	0	—	0	2	0	2
	彫刻	0	—	0	13	0	13
	工芸品						
	書跡・典籍	0	—	0	10	0	10
	古文書	0	—	0	6	0	6
	考古資料	1	—	4	33	0	38
	歴史資料	0	—	0	19	0	19
無形文化財		0	(1) ※1	1	1	0	2
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	—	0	9	0	10
	無形の民俗文化財	2	(3) ※2	2	15	0	19
記念物	遺跡	3	—	2	4	0	9
	名勝地	(1) ※3	—	0	1	0	1
	動物・植物・地質鉱物	3	—	2	15	0	20
	文化的景観	0	—	—	—	—	0
伝統的建造物群		0	—	—	—	—	0
合計		12	(4)	12	149	26	199

※1 国の記録選択1件（村上堆朱）は県指定無形文化財1件（村上堆朱）と重複

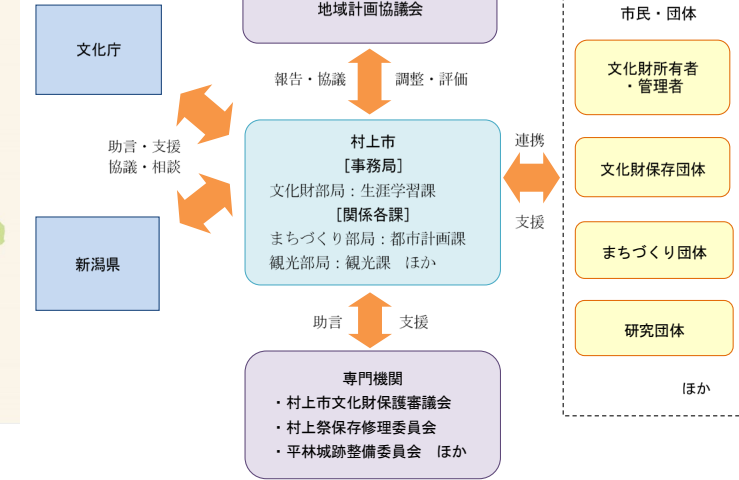
※2 国の記録選択3件（越後のしな布紡織習俗、山北のボタモチ祭、大須戸能）は市指定無形文化財1件（紡織習俗「シナバタ」）、重要無形民俗文化財1件（山北のボタモチ祭り）、県指定無形民俗文化財1件（大須戸能）と重複

※3 笹川流は名勝地および地質鉱物として重複指定

\* 国指定・選定と国選択の（ ）は※1～3で記した重複の件数を示す

指定等文化財は199件、  
未指定文化財は2,854件把握

## 推進体制



## 歴史文化の特徴

### ①奥三面遺跡群や山元遺跡などの遺跡が伝える先史時代～古代の暮らし

縄文時代の奥三面遺跡群、弥生時代の山元遺跡、古代の浦田山古墳群などの遺跡は、本市付近が北方（東北地方）・西方（北陸地方）の双方の文化が交わる地域であったことも示している。

### ②平林城跡・大葉沢城跡などの遺跡が伝える中世の町、村

中世の町や村の痕跡は室町時代の馬場館跡、戦国時代の平林城跡や大葉沢城跡などの遺跡のほか地名や石造物などとして今も身近な場所にあり、生活と信仰の形とともに中世の歴史を現在に伝えている。

### ③村上城と城下町の文化

村上城と城下町は江戸時代の地域の拠点であり、城下町の道や地割りの形は現在も受け継がれている。城下町で発達した漆工や木工の技術、鮭の食文化、村上祭などの伝統文化は、現在も地域の生活の一部となっている。

### ④海と陸、北前船寄港地や出羽街道・米沢街道を通じた交流

海の道、陸の道は村上城下や海岸部の港を基点としてつながり、人と物資の交流とともに他地域から多くの文化がもたらされた。港町の町並みや街道沿いに残る文化財が、海と陸を通じた交流の歴史を伝えている。






### ⑤豊かな自然が育んだ三面川・大川の鮭漁、『灰の文化』などの生業

豊かな自然が育んだ生業は三面川・大川の「鮭の文化」、山北地域の「灰の文化」など、現在もその技術とともに受け継がれ、伝統産業として地域の生活を支えている。

### ⑥村上祭の屋台行事、三匹獅子踊りなどの多様な伝統行事

自然に対する信仰や生活の中での祈りは時代とともに変化しながら多様な伝統行事として受け継がれ、村上祭や三匹獅子踊りなどの行事は生活の一部となり、地域の人々を結びつける大切な存在となっている。

# 基本目標 歴史文化に親しみ、誇りを持って、ともに生きていくまち

基本的な方向性	課題	方針	措置の例
1 文化財を知る、 見つける	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査未実施の文化財の所在を把握する調査が必要</li> <li>文化財を価値付ける調査・研究が必要</li> <li>地域にある文化財の価値を発信する取組が必要</li> <li>文化財に対する興味関心を高めるために情報発信の取組が必要</li> </ul> <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵画、彫刻、工芸品などの文化財の把握調査を推進する</li> <li>映像、録音などによる文化財の記録作成を推進する</li> <li>文化財を価値付ける調査・研究を推進する</li> <li>調査・研究で明らかになった文化財の価値を発信する</li> <li>文化財の情報を発信し、文化財に対する興味関心を高める</li> </ul> <p>等</p>	<p><b>9 文化財見学会の開催</b></p> <p>各地域で文化財の現地見学会を開催</p> <p>■取組主体：市、市民・団体 ■計画期間：R10～17</p> 
2 文化財を守る、 磨き上げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の保存に関わる人材の育成が必要</li> <li>文化財の修理を行う専門技術者を育成する取組が必要</li> <li>所有者や管理者が不在となっている古文書の保存が必要</li> <li>歴史的建造物の空き家化、老朽化への対策が必要</li> <li>文化財の保管施設の改修、確保が必要</li> <li>防災、防犯設備が未整備の文化財が多く、防災、防犯体制の整備が必要</li> </ul> <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の保存に関わる人材を育成する</li> <li>文化財の修理を行う専門技術者を育成する</li> <li>所有者や管理者が不在となっている古文書、歴史的建造物を保存する</li> <li>劣化・老朽化した文化財の保存修理事業を実施する</li> <li>文化財保管施設を整備する</li> <li>文化財の防災、防犯体制を整備する</li> </ul> <p>等</p>	<p><b>10 文化財保存修理技術の研修会</b></p> <p>祭屋台等の修理技術に関する研修会（技術者及び一般対象）</p> <p>■取組主体：市、市民・団体 ■計画期間：R9～17</p> 
3 文化財を活かす、 発信する	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財に関連した情報を発信する体制が整備されていない</li> <li>学校教育と連携し文化財を教育現場で活用する取組が必要</li> <li>文化財を現地で活用する参加型の取組が必要</li> <li>パンフレットの多言語化の対応（ほか外国人観光客の受入体制の整備が必要</li> <li>文化財の魅力を伝えるガイド養成の取組が必要</li> <li>文化財の現地見学を受け入れる体制の整備が必要</li> </ul> <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財を軸とした交流人口の拡大につながる情報発信体制・受入体制等を観光部局と連携して整備する</li> <li>学校教育と連携して文化財を教育現場で活用する</li> <li>現地で文化財の価値に触れることができる参加型の取組を進める</li> <li>パンフレット類の多言語化を進め、外国人観光客の受入体制を整備する</li> <li>文化財の魅力を説明できるガイド養成の取組を進める</li> <li>現地で文化財見学を受け入れる体制を整備する</li> </ul> <p>等</p>	<p><b>17 建造物、町並みの現地学習会</b></p> <p>旧村上城下町地区、旧港町地区などの町並み見学会の実施</p> <p>■取組主体：市民・団体、市 ■計画期間：R8～17</p> 
			<p><b>27 村上市郷土資料館の公開機能整備</b></p> <p>郷土資料館の情報発信機能の整備、更新</p> <p>■取組主体：市 ■計画期間：R8～17</p> 
			<p><b>33 学校での文化財講座</b></p> <p>学校の地域学習とあわせた文化財講座を開催</p> <p>■取組主体：市 ■計画期間：R8～17</p> 



## ①自然と共生した先史時代～古代の暮らし

三面川・荒川ほか河川流域を中心に数多く確認されている旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古代の遺跡は、自然の恵みを生かし、自然と共生した祖先の生活の痕跡といえる。縄文時代の奥三面遺跡群、弥生時代の山元遺跡、古代の浦田山古墳群などの遺跡は、長い年月とともに変化してきた人々の生活と社会の状況を伝えている。



## ②身近にある中世の風景

三面川や荒川の川沿い、旧岩船潟の周辺などに形成された中世の町や村は、地名や石造物などを痕跡として残している。これらは室町時代の馬場館跡、戦国時代の平林城跡や大葉沢城跡などの城館跡とともに身近な場所に今もあり、中世の歴史を現在に伝えている。



## ③城下町村上で育まれた文化

江戸時代に整備された村上城と城下町は地域の拠点となり、城下町の雰囲気を残しながら現在も市街地を形成している。その歴史的な景観は来訪者に時を語り、数百年を経て城下町で受け継がれてきた工芸技術、食、行事などが過去と現代を越えて人々の生活を支えている。



## ④海、山、川を通じた交流

北前船が行き交った海の道、旅人が行き交った陸の道は、村上城下や海老江、塩谷、岩船、瀬波の港によってつながり、他地域から多くの文化をもたらした。人と物資の交流は地域の発展を支え、その痕跡が港町の町並み、民俗芸能などの形となって現代に伝えられている。



## ⑤風土に育まれた生業と生活文化

山・川・海の豊かな自然が育んだ生業は長い年月を経て、三面川・大川の「鮭」、山北地域の「灰の文化」など固有の文化として受け継がれている。伝統的な技術を有する人々の活動は現代の生活の中でも輝きを放ち、地域の伝統産業として未来へ向けて新しい歴史を刻んでいる。



## ⑥暮らしの中にある信仰と伝承

人々の自然に対する信仰や生活の中の祈りは、時代とともに変化しながら村上祭をはじめとした屋台行事、荒川地域と神林地域の獅子踊りなどの多様な伝統行事として受け継がれている。それらの伝統行事は今も生活の一部となっていて、地域の人々を結び付ける大切な存在となっている。



**概要** 自然と共生した生活から生まれた信仰は、各地域で様々な伝統行事となって伝えられている。中でも旧村上城下の祭礼である村上祭、港町の祭礼である岩船祭や瀬波祭では本市を中心とした地域にのみ分布する二層二輪の祭屋台が用いられ、祭屋台の囃子や曳手が唄う甚句や木遣りとともに、地域外との交流によってもたらされた有形・無形の文化と結びついて発展した地域の歴史を伝えている。また、荒川地域・神林地域・山北地域にみられる三匹獅子踊りや市内全域にみられる獅子舞、神楽などの芸能を伴う行事のほか、五穀豊穡への祈りを込めた山北のボタモチ祭り、山北地域・朝日地域の奉納相撲などの多様な行事が四季を通じてみられ、季節の移り変わりを鮮やかに彩っている。これらの伝統行事は暮らしの一部となり、行事の舞台となる社寺の建物や行事に関する伝承などとともに受け継がれ、地域のシンボルとして住民の誇りにもなっている。

## 関連文化財群に関する主な課題

- ・ 伝統行事の担い手となる子どもの減少により行事の維持が困難となっている。
- ・ 伝統行事の用具等が老朽化しているが、修理に伴う経済的負担が大きくなっている。
- ・ 屋台行事や三匹獅子踊りなどの伝統行事を運営するための作法を知る人、伝統行事に用いる用具等を維持するための技術を有する人が減少している。
- ・ 伝統行事の意味を知る人が減少し、文化財としての価値が忘れられている。等

## 関連文化財群に関する主な方針

- ・ 伝統行事の担い手確保に向けて地域全体で行事を伝承する体制を整備する。
- ・ 伝統行事の用具等の修理に対して各種助成制度を活用した支援を充実させる。
- ・ 関係団体との連携による研修会、学習会などを通じて伝統技術の周知、後継者育成を図る。
- ・ 伝統行事の文化財的な価値を明らかにするための記録調査や研究を進め、その成果を周知する。等

## 関連文化財群に関する主な措置

### 6-2 伝統行事の伝承支援

各種補助事業による伝統行事の用具等修理への支援を通じた伝承体制の強化

■取組主体：市、市民・団体 ■計画期間：R8～17

### 6-3 文化財修理技術の伝承支援

祭屋台等の修理、保存技術に関する研修会等を通じた技術伝承

■取組主体：市民・団体、市 ■計画期間：R8～17

### 6-7 伝統行事の記録調査、研究

各地域の伝統行事の映像記録、文書記録の作成、研究

■取組主体：市、市民・団体 ■計画期間：R8～17

## 構成文化財（構成文化財のうち指定等文化財の伝統行事を下表に記載）

文化財の名称	地域	年代	指定区分
山北のボタモチ祭り	山北		国
村上祭の屋台行事	村上	江戸時代	国
岩船まつりのしゃぎり曳行と「とも山」行事	村上	江戸時代	県
大須戸能	朝日	江戸時代後期	県
大栗田のアマメハギ	村上		市
塩野町オサトサマ	朝日		市
上・下鍛冶屋獅子踊り	荒川	江戸時代後期	市
坂町獅子踊り	荒川	江戸時代後期	市
金屋獅子踊り	荒川	江戸時代後期	市
大津獅子踊り	荒川	江戸時代後期	市
名割獅子踊り	荒川	江戸時代後期	市
佐々木区神楽舞	荒川	江戸時代後期	市
鳥屋神楽	荒川	江戸時代後期	市
大神楽(獅子舞・三番叟)	神林	江戸時代	市
大場沢獅子舞	朝日		市
府屋獅子舞	山北	江戸時代後期	市
牛屋獅子舞	神林	江戸時代中期	市
福田獅子踊り	神林	江戸時代末期	市



山北のボタモチ祭り



村上祭の屋台行事



岩船祭



坂町獅子踊り



# 【参考】関連計画等 村上市歴史的風致維持向上計画（第1期 平成28～令和7年度）

## 村上市の維持向上すべき歴史的風致

計画期間 平成28年度(2016)  
～平成37年度(2025)

村上市には、旧村上城下として発展した城下町や出羽街道、三国街道中通り、米沢街道などによって村上城下と密接なつながりを持っていた宿場町、北前船の寄港地として栄えた港町などがあり、歴史的な町並みも数多く残っている。また、それらの町や集落の町並みと一体となって歴史的風致が形成されており、地域固有の産業や独自の民俗芸能、習俗等が現在まで受け継がれている。

### ① 村上城下の祭礼にみる歴史的風致

村上城の城下町である村上地区は町の発展とともに村上まつり等の伝統行事が育まれ、まつりのしゃぎり屋台と町家によって創り出される風景や情緒はこの地区特有の歴史的風致を形成している。



村上まつり

### ② 瀬川の制など鮭文化にみる歴史的風致

三面川の鮭は、村上藩の財政を支えながら城下の形成発展に寄与し、現代に至るまで多様な文化や生業を育むとともに関連文化が現在まで受け継がれている。



町家の軒下に吊るされた塩引き鮭

### ③ 村上城下の木と漆の匠にみる歴史的風致

村上大工が携わる社寺や武家住宅、町家などの修復作業や彫漆工芸の代表作である村上まつりのしゃぎり屋台の点検、修理する風景は、社寺や町家などの町並みと一体となり歴史的風致を形成している。



しゃぎり屋台の組み立て

### ④ 北限の茶処にみる歴史的風致

市街地内の茶畑での茶摘み風景や新茶の時期に町中に広がる茶の香りはこの地域の季節の風物詩であり町中で季節を感じる歴史的風致となっている。



市街地内の茶畑での茶摘み作業

### ⑤ 石船神社の祭礼等にみる歴史的風致

石船神社の麓に形成された岩船地区には、岩船まつりや岩船七夕等の伝統行事が歴史的な町並みを舞台に行われており、神と海に対する信仰によって受け継がれ、住民生活と密接に関係しながら歴史的風致を形成している。



岩船まつり

### ⑥ 西奈弥神社の祭礼等にみる歴史的風致

村上城下の外港である瀬波地区には、港町としての歴史や文化を感じる瀬波まつり等の伝統行事が伝承され、この行事と港町の町並みが一体となり歴史的風致を形成している。



瀬波まつり

### ⑦ 三国街道と米沢街道沿線の伝統行事にみる歴史的風致

三国街道中通りや米沢街道が整備された荒川地域には、獅子踊りの文化圏が形成され、さらに、各集落で特徴を加えた獅子踊りとして発展、伝承されており、神社への信仰を中心に地域コミュニティの核となっている。



板町獅子踊り

### ⑧ 荒川河口の港町・市町の祭礼にみる歴史的風致

荒川河口の港町、市町の歴史的町並みの中で行われる塩谷大祭や金屋獅子踊り等の伝統行事は、産業と商業を取り込みつつ伝統を誇りとする住民の意識により継承され活力の源になっている。



塩谷大祭

### ⑨ 出羽街道沿線の伝統行事にみる歴史的風致

出羽街道を通じて様々な文化が伝わった街道沿線集落には、大須戸能や塩野町オサトサマ等の行事が伝承され、誇りとともに旧々の生活の活力となっている。



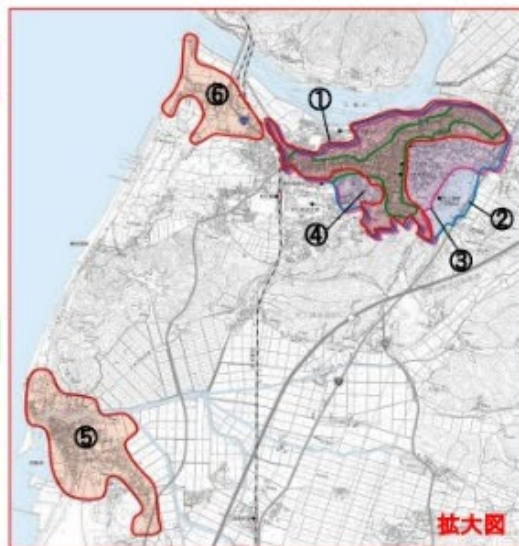
大須戸能

### ⑩ 大川城跡周辺の祭礼にみる歴史的風致

大川城下に形成された府屋集落は、出羽街道沿線の宿場町として発展し、府屋獅子舞や桜花祭等の行事が伝承され、集落内の町並みと一体となり歴史的風致を形成している。



府屋獅子舞



※歴史的風致の標題の枠線及び枠内の色は歴史的風致の範囲と同色